

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会 これまでの経緯

(1) 荒川流域エコネット地域づくりアクションプランの策定経緯

平成29年度 推進協議会の設立

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会（以下「推進協議会」）の設立

※WG設置に向けた調整等

令和2年度 WGの設立・アクションプランの策定

◎荒川流域エリア・ワーキングの設置（学識者、市民団体、自治体、河川管理者）

⇒計3回のワーキング会議においてアクションプランの内容・役割分担について意見交換を行った。

◎第2回荒川流域エコネット地域づくり推進協議会を開催

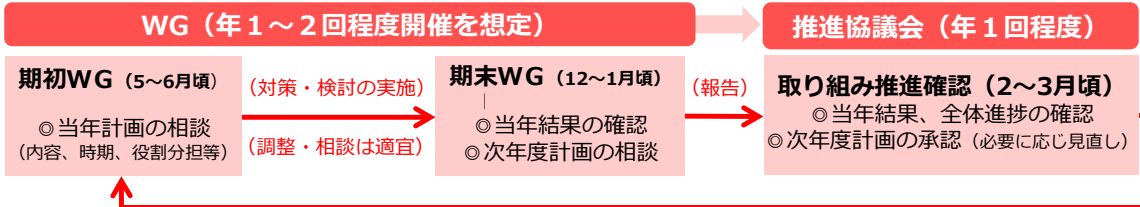
⇒推進協議会においてアクションプランの内容を確認・承認。今後の取り組み推進に向けて期待することについて意見交換を行った。

※WGを継続してアクションプランに関する具体の取り組みを進める

令和3年度～アクションプランの推進

◎WGを年2回程度（期初・期末）開催し、当年度・次年度のプラン実行計画案を相談しながら取り組みを推進し、結果を協議会へ報告する。

◎協議会では、WGからの報告事項を受け、アクションプランの進捗状況を確認する。また、必要に応じて、次年度以降の実行計画や体制の見直しなどを検討するなどし、取り組みの推進を図る。



◎第5回荒川流域エコネット地域づくり推進協議会を開催

⇒令和4年度活動結果・取組事例の報告や取り組みの進捗確認を実施。今後のアクションプラン推進のため、今後の取組指標や埼玉県SDGs官民連携プラットフォームへの参加等が承認された。



◎第1回WG（令和4年7月7日）
◎第2回WG（令和5年1月18日）



◎第5回推進協議会（令和5年2月6日）
WEB会議形式にて開催

アクションプランの推進



推進協議会の認知度向上、及び、取り組みへの理解者・賛同者増加を増やすため、ニュースレターの第1号発行なども実施

※今後のWGは、当年結果の確認・次年度計画の相談を、期末にまとめて1回実施するなど、効率化を図っていくことも想定する。

荒川流域における「エコネット地域づくり」の目標達成

(2) アクションプランの目指すもの

1) 取り組みの目標

- コウノトリ、トキを指標とし、河川及び周辺地域における治水と調和した水辺環境の保全・再生によるエコロジカル・ネットワークの形成、また、それらを活用した地域振興・経済活性化を推進すること。

2) アクションプランの位置づけ

- 本取り組み目標達成に向けて、今後10年で、地域関係者がそれぞれ、あるいは連携・協力して行っていこうとする取り組みについて、地域関係者による意見交換のうえとりまとめたもの。
- 協議会関係者が、可能な範囲で、連携・協力・調整するなどして推進していくことを想定する。
- 5年程度で取り組み状況を確認し、成果や課題を踏まえ、必要に応じて計画を見直しながら、推進していく。

(3) アクションプランの内容

1) 生物の生息環境保全に関するプラン

プラン	取り組み内容 (例)
(プラン①) 合同生きもの 調査の実施	◎関係者各自で実施している水辺の調査を、連携・協力（相互参加や技術交流等）により盛り上げます。 ◎関東エコネットで公表されているコウノトリ採餌量調査の手引きを活用するなどし、各地域の河川・農地等における統一した手法による調査実施を支援します（調査体験会の運営補助や機材の貸出し等）。
(プラン②) ゴミ・外来種問題 への対応	◎関係者各自で実施している清掃活動（プラスチックごみ対策など含め）や外来種駆除対策を、連携・協力（相互参加や技術交流等）により盛り上げます。 ◎清掃時等にも活用できる外来種駆除の手引きを作成・配布するなどし、各地域の河川・農地における外来種対策を支援します。
(プラン③) 環境学習・観察会 の推進支援	◎関係者各自で実施している環境学習会や自然観察会を、連携・協力（相互参加や技術交流等）により盛り上げます。 ◎本プランで挙げた指標種・シンボル種の学習・観察会の実施を支援（開催の運営補助やテキストや機材の貸出し等）します。
(ベースとなる取り組み) これまでの活動継続	協議会関係者が、河川や農地、里山林、公園等でこれまでに実施してきた各種取り組みを、それぞれ、引き続き推進する。

2) 地域振興・経済活性化に関するプラン

プラン	取り組み内容 (例)
(プラン④) 各種広報の 展開	◎関係者各自で実施している環境関連の催事や拠点等を、連携・協力（相互参加や技術交流、エリア共通カレンダーの整理等）により盛り上げます。 ◎荒川流域エコネット地域づくりの取り組みや、地域の活動・魅力に関する広報を推進（ロゴマークやPR資料の検討・作成、それらを活用した行事出展等）します。
(プラン⑤) エコツアーの 推進支援	◎関係者各自で実施している観光振興の対策を、自然の恵みを活用して支援します。 (例：自然観察スポット、特産品（コウノトリのエサ資源にもなるドジョウ等）、サイクリング・ウォーキングマップ等の関連情報の収集・整理・発信、観光スポットの生態的な価値に関する情報提供、自治体同士の連携によるスタンプラリー、森林セラピー等)
(プラン⑥) 関係者間の ネットワーク支援	◎さまざまな場所・機会において、個人や市民団体、企業、自治体等の地域関係者間の連携促進を図ります。 (例：流域情報の収集・整理・発信、交流会・発表会や人材紹介による地域関係者同士の連携・交流の促進、情報共有のためのSNS活用等)
(ベースとなる取り組み) これまでの活動継続	協議会関係者がこれまでに実施してきた、環境に配慮した地域振興に関する各種取り組み（観光・商業・地域連携等）を、それぞれ、引き続き推進する。

推進協議会（WG）の取り組みとして関係者が連携・協力して進める

(4) 推進協議会・エリアワーキング会議の開催経緯（主なご意見等）

①第5回 荒川流域エコネット地域づくり推進協議会

令和5年2月6日（月）13：30～15：30 / Web会議形式

- 魚類などの川の生物や生態系を地域連携で豊かにすることと、エコネットとグリーンインフラとの関係をしっかりと検討した上で事業に落とし込むといった観点で議論を進めてほしい。
- 国交省と自治体の連携・協働による流域治水を進めていくことについて、どのくらいの治水効果が発揮されるかを見積もっていく必要があるのではないか。荒川流域でも科学的に議論できるような形にしていくべきだと考えている。
- アライグマは見た目がかわいい動物であることから飼育を始めたが、飼いきれずに放してしまったことが、今のように広がった問題の一因になったともいわれている。アライグマに限らず、子どもから親世代まで、多くの方々に飼育における責任を理解してもらう必要があるかと思う。
- コウノトリの放鳥自体というよりは、コウノトリが生きていける環境があるということの大切さを、このエコネットの取り組みを通して皆さんに伝えていなければいけない。
- 子どもを対象にした調査会などのイベントを開催することは大切だが、参加者が30人程度は少なすぎる。コロナ禍で難しいとしても、参加人数を増やしていくことが必要かと思う。
- 川の氾濫により財産や田畑が流されてしまうということへの対策として、治水の取り組みが行われていると意識すること、さらに、それがコウノトリ野生復帰の取り組みにも寄与するのだ、というような、ある意味、逆転の発想で水災害意識を高めてもらうための取り組みが必要ではないか。

②令和5年度第1回 荒川流域エリア・ワーキング

令和5年8月2日（月）13：30～15：00 / Web会議形式

- アライグマやミドリガメ等の外来生物に責任はなく、持ち込んでしまった人間に責任があることについて、難しいところではあるが、この問題点をしっかりと伝えていく必要がある。
- 推進協議会で作成した缶バッジ等のイラストをフリー素材にして活用してもらうようにすると、ミドリシジミやサクラソウなど、他の市町の特色にも興味を持ってもらえるのではないかな。
- ポータルサイトについて、基本的には関係者間のリアルタイムの情報共有という形での運用を検討しているところがあるが、これを一部だけでも一般向けに公開することは考えているのか。
- 流域共通マップにある特産物・観光スポット情報はこちらだけで提供するのではなく、一般の方も情報提供していただくことで、サイトの価値が上がっていくような運用ができるのではないかな。
- 流域共通マップには生きものの生息地などの情報も確認できるものがあると良い。
- コロナ禍が終息していくと共にインバウンドが増えているが、非常に日本的風景を持つ荒川流域にはなかなかインバウンドが訪れない。短期的な対策は難しいと思うが、長期的な視野でインバウンドを迎える方法を考えるのもよいのではないかな。
- 缶バッジのデザインを活用し、5市町を周遊する企画（スタンプラリー等）を立てるのも面白いかなと思う。
- 鳥類の祖先は恐竜であることなど、話題を派生させて多様な角度から子どもたちの興味を引いていくのもよいのではないかな。

③令和5年度第2回 荒川流域エリア・ワーキング

令和6年2月21日（水）14：00～15：30 / 荒川上流河川事務所会議室・Web会議 併用

- 観察会などを行うのは重要であるが、生きものに興味を持つ子どもが増えるだけでなく、貴重な結果を得られたかによってエコネットの価値が出るため、そういった観点でも取り組みを推進するべきである。
- 生物調査を継続して行うことも大切であるが、生きものを増やす取り組みを追加すると良いのではないかな。
- 水辺の生きものだけではなく、例えば哺乳類の足跡調査などもできると良いのではないかな。
- 荒川流域にコウノトリが住み着くようになるには採餌場が重要となるため、荒川周辺の水路にも生きものがすめる環境づくりを目標に取り組むことが大切である。
- 5市町をコンパクトに周遊するスタンプラリーもひとつの方法として良いが、各流域関係団体の広域連携や、マンホールカードなどの収集愛好家が興味をもつものなどを検討すると、集客に繋がるのではないかな。
- もし荒川流域にインバウンドを呼び込むのであれば、日本人の視点ではなく、海外視点で何が魅力的なのかを探すべきである。
- アクションプランに捉われず、新たな視点で取り組みを追加していくと良いのではないかな。

推進協議会、エリア・ワーキングにおけるご意見・ご指摘・アイデア等を踏まえて、本年度の取り組みを進めるとともに、次年度の計画案を整理した（本推進協議会にて報告する）。